

No.242

2020年
11月号

さくらの

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館

〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

第74回 読書週間

「ラストページまで 駆け抜けて」

10月27日から11月9日は
読書週間です。

今年の標語は「ラスト
ページまで駆け抜けて」
です。

図書館では「読書週間」
と「読書の秋」にちなんで
11月は企画展示のほかに
「読書クイズ」を行います。

ぜひお立ち寄りください。



★集まれ!!小中学生

「図書館読書クイズ」

11月26日(木)まで

今年も恒例行事の「図書館読書クイズ」を開催
します。対象は小中学生。図書館の本で調べて、
答えてください。全問正解者には記念品をプレ
ゼント! (正解者多数の場合は抽選となります。)

詳しくは図書館窓口で!!



展示のご案内

★ メイン展示

「秋の夜長にミステリー」

展示期間 11月26日(木)まで

メイン展示は「秋の夜長にミステリー」と題して

- ・いろいろな不思議とミステリー
- ・名探偵をたのしむ 日本の探偵小説
- ・外国の名探偵とおすすめの海外ミステリー

という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

- 「世界一不思議な錯覚アート」「少年探偵団」
- 「ABC殺人事件」「濱地健三郎の霊なる事件簿」

《 図書館よりおすすめの本 》

●「始まりの木」

夏川草介著

民俗学を学ぶ学生と民俗学者が旅を通して、生きること、学ぶ意味を問う物語、全5編収録。

第4話「同行二人」は宿毛市が舞台となっています。ぜひ、読んでみてください。



読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

「始まりの木」

夏川草介 著
小学館

民俗学を研究する大学院生、藤崎が准教授・古屋先生に従い日本各地を巡る。

第4話では、宿毛市が舞台となっています。

旅先で様々な風景に出会い、自分もその場にいるような感覚になります。

現代を生きる私たちが忘れかけているものを思い出させ、優しい気持ちにしてくれる物語です。

(岡村)

(一般)

「今日からできる！ 暮らしの感染対策バイブル」

堀成美 監修
主婦の友社

新型コロナウイルスの流行によって、感染症の恐怖と戦うことになりました。

メディア等でも、感染症対策が報じられています。しかし、対策をしても不安や心配は消えないように思います。

この本は、身近な暮らしの中で生まれた165の疑問に答えた1冊です。怖がるよりも正しい知識と対策で、日々暮らす中で不安を少しでも減らすことができるのではないのでしょうか。

(尾崎)

(児童)

「はんぶんこ」

多田ヒロシ 著
こぐま社

パンダがケーキをはんぶんこ。ブタがすいかをはんぶんこ。動物たちそれぞれが自分達の大好物をはんぶんこ！はたして仲良く上手にわけることができるのでしょうか？

絵もかわいらしくはっきりしているので、乳幼児の読み聞かせにピッタリ。読んだ後、思わず誰かとはんぶんこしたくなる心温まる絵本です。

(檜田)

(児童)

「昔のお仕事大図鑑」

小泉和子 監修
日本図書センター

昔はなくてはならなかったのに、今ではあまり見られなくなってしまった職業。馬を使って荷物を運ぶ「馬子」、電話をかけた人と受ける人の回線をつなぐ「電話交換手」、女性の花形職業「エレベーターガール」など87の仕事を豊富な写真とともに紹介。こんな仕事があったんだ！と新しい発見が満載です。昔あった職業が何に変化したのか、また今ある職業がこれからどう変化していく可能性があるのかを、親子で考えながら読むのもおすすめです。

(山口)

ある豊かな時間

山下量子

10月24日の夜。満席の飛行機が羽田空港に到着した。コロナ禍の日本で、東京に向かうことは私なりに勇気がいったけれども、どうしても目にしたいイベントがあった。

そのイベントとは、お笑い芸人であるキングコング西野亮廣さんとYOUTUBE講演家の鴨頭嘉人さんとの対談だ。

キングコング西野亮廣さんは知る人ぞ知る有名な人だ。オンラインサロンというインターネットを利用した会員制のコミュニティを運営するも会員数は約7万人という日本最大規模。その会費は、月額1,000円なので、彼には実質、毎月7,000万円という膨大な金額が入る。しかし、彼はそれを自分のポケットに入れるのではなく、貧しい国に学校を作ったり、絵本を寄贈したり、災害支援をしたり社会奉仕をしながら、お笑いもしながら、その独自の世界観で絵本を作ったり、映画を作ったりと、エンターテイメントで世界を明るくすることをモットーに日々、活動しまくっている人なのである。

彼は着るものにも食べるものにも無頓着。ただ創作活動に打ち込み「ディズニーを超える」と、日々、挑戦し続ける人であり、今私が最も憧れ尊敬する人なのである。

彼が逆境を体験した中で制作した絵本「えんとつ町のプペル」は8年の年月を経て今年映画化が決定。12月25日に公開される。そんな勢いに乗っている西野さんだからこそ、実際に目にしたい。そしてあわよくば、その創作活動の秘訣やモチベーションの保ち方を知りたい。そんな思いがあった。そしてそれ以外にもう1つ理由があった。

今回の講演会は、主催した鴨頭嘉人さんが参加費の収益全て（オンラインを含む）を、映画「えんとつ町のプペル」のチケットにして子どもたちにあげるという企画であった。

それを謳い文句にクラウドファンディングで支援を募ったところ、2時間の二人の講演会の視聴に動いた金額は、なんと5,940万円。支援者は6,900人を超えた。

一日で約6,000万円が動くイベント。それはどんなものであるか、まるで歴史的瞬間を見守るような気分で、その場所にリアルに足を運びたかった。それが第二の理由であった。そして今回、私は一般参加者ではなくボランティアスタッフに手を挙げて参加したのだった。

翌日朝の9時、東京国際フォーラムの会場のホールで、鴨頭さんによる朝礼が始まった。彼が言った第一声は、「仕事では愚痴を言うヤツは沢山いる。けれどボランティアスタッフで愚痴を言うヤツを見たことがない。なぜなら皆、自らの意思でこの時間に価値を見出し、足を運んだ人間だからだ。そして求めた分だけのものを必ずここで持ち帰れる」だった。確かにそうだと思った。

その日、自分の担当は物販の経理部門でタブレットを使ったカード決済役だった。会場には1,000人の人々が来場した。

講演会が始まると、後ろの方の席でボランティアスタッフも講演会を聞いた。

西野さんが登場すると拍手が沸いた。

想像どおり、素晴らしい講演会だった。

創作物を作るには、その裏で、膨大な量のインプット（知識の収集）がいること。セールスの分野でも、結果を出す人と出さない人の差には、目に見えない部分でどれだけのインプットという知識があるのか、そしてどれだけの思いがあるのかが滲み出ること。そのインプットを増やすには、他人の言葉を「聴く」という姿勢がキーであること。

そんな話や、鴨頭さんが昔、自分の弱さを、お金のせいにしてきたけど、本当は自分が諦めていた。人が夢を諦める理由はお金でもなく環境でもなく、自分なんだと、自分が自分に制限をかけていることでしかないということを西野さんの本から学んだ、という話をした時には鴨頭さんは涙ぐんでいて、こちらもらい泣きしてしまった。

つまり鴨頭さんは、西野さんの魅力を最大限に引き出す人であり、だからこそ、このコラボ講演は価値があったのだ。

そして来場者のほとんどは、講演を聴くということだけではなく、西野さんの映画を通して、コロナに制限されたこんなご時世だからこそ、エンターテイメントを世界に届けたい、映画の中にある夢を追い続ける姿を見せたい、人と人とのつながりの大切さを伝えたい、そんな思いであることもわかった。

あっという間の一日は、豊かで計り知れない充足感を私に与えてくれた。

勇気を出して行って良かった。そう思った東京行だった。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「おうち時間を使ってはじめるYouTube」 主婦の友社編
- 2 「ジョン万次郎の羅針盤」 中濱武彦
- 3 「実践!オフィスの効率化ファイリング」 長野ゆか
- 3 「磯野家の相続」 長谷川裕雅
- 4 「今日からできる!暮らしの感染対策バイブル」 堀成美監修
- 5 「ふわふわカステラの本」 中川たま
- 5 『ルイーザ・メイ・オールコットの「若草物語」クックブック』ルイーザ・メイ・オールコット
- 9 「滅びの前のシャングリラ」 風良ゆう
- 9 「夜明けのすべて」 瀬尾まいこ
- 9 「始まりの木」 夏川草介
- 9 「スター」 朝井リョウ
- 9 「日没」 桐野夏生
- 9 「孔丘」 宮城谷昌光
- 9 「デルタの羊」 塩田武士
- 9 「善医の罪」 久坂部羊
- 9 「死の扉」 小杉 健治
- 9 「われもまた天に」 古井由吉
- 9 「世間とズレちゃうのはしょうがない」 養老孟司・伊集院光
- 9 『「グレート・ギャツビー」を追え』 ジョン・グリシャム
- 9 「誓願」 マーガレット・アトウッド

※左側の数字は図書の分類を表しています。
0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 『中高生の悩みを「理系センス」で解決する40のヒント』 竹内薫
- 「偉人もみんな悩んでいた」 こざきゆう・真山知幸
- 「昔のお仕事大図鑑」 小泉和子監修
- 「すごい科学者のアカン話」 藤嶋昭監修
- 「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」 佐藤克文
- 「お米をつくろう!バケツで育てる田んぼで育てる」 山口誠之監修
- 「おとうとのたからもの」 小手鞠るい
- 「ぼくの犬スーザン」 ニコラ・デイビス
- 「ピーターラビットのクリスマス」 レイチェル・ボーデン
- 「はみがき探偵」 キム フィナム

絵 本



- 「はんぶんこ」 多田ヒロシ
- 「うごきません」 大塚健太・柴田ケイコ
- 「せとうちたいこさんふじさんのぼりタイ」 長野ヒデ子
- 「ぎょうれつのできるスパゲッティやさん」 ふくざわゆみこ
- 「ポポくんのおばけパン」 accototo
- 「スマイルショップ」 きむらさとし
- 「アニメおさるのジョージちしきえほん わるいきんをやっつけろ」 マーガレット・レイ

★このほかにもたくさんの図書が入っております。
図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00 は休館日
 ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/sbc/library/index.html>
 メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp